

〔科目名〕 教育相談の理論と方法	〔単位数〕 1 単位	〔科目区分〕 教職課程(必修)
〔担当者〕 鈴木郁生 Ikuo SUZUKI	〔オフィス・アワー〕 時間: 授業開始時に指示する 場所: 614 研究室	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 本科目は、教育相談の理論と、その方法について学ぶ。これらの内容は、生徒達の抱える問題を理解し、生徒達を適切に援助していくために必要とされる知識である。具体的には、カウンセリングの理論や技法について学び、さらにいじめや不登校などの代表的な問題について理解を深める。更に、ロールプレイなども行いながら、教育相談の全体像について考察する。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 本科目は、教職課程における必修科目である。生徒達は学校の内外で様々な問題にぶつかるものであり、教師がそうした生徒達を適切に支援していくことが求められている。そのため教師として生徒と接するにあたっては、教育相談の理論や技法を学ぶことが重要である。また、相談を専門的に行うかどうかに限らず、カウンセリングマインドを理解し、それを基とした教育姿勢は教師として不可欠なものであろう。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 本科目の目標は、教育相談の理論と方法についての基本的な知識を修得することである。さらにカウンセリングマインドを理解し身につけていくことも期待している。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 良好な評価を頂いた。良い点として指摘された内容は、本年度も授業に取り入れていく予定である。		
〔教科書〕 なし		
〔指定図書〕 『カウンセリングの技法』 國分康隆 誠信書房 『カウンセリングの理論』 國分康隆 誠信書房		
〔参考書〕 授業時に適宜紹介する		
〔前提科目〕 なし		
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) レポートによる評価を行う。また授業における課題への取り組みも評価の対象とする。これらを総合して評価する。		
〔評価の基準及びスケール〕 上記の〔学修の課題、評価の方法〕に記した総合点を、以下のように評定する。 A: 100～80 点 B: 79～70 点 C: 69～60 点 D: 59～50 点 F: 49～ 0 点		

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 学生自身に考えさせ、理解を深めていくような授業を心掛けたい。受講者も未来の教師としての心構えを持って欲しい。 また宿題やロールプレイに対しても積極的に取り組んでもらいたい。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか)：オリエンテーション・性格の理論 内 容：初回の授業であり、本授業の目的と授業展開についてオリエンテーションを行う。また、教育相談の趣旨、性格・人格の理論について概説する。 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか)：人格把握の手法 内 容：知能検査・性格検査などを通し、人格把握の手法と問題点について解説する。 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか)：カウンセリングの理論 内 容：カウンセリングに関わる理論や現象、心理療法などについて学ぶ。 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか)：カウンセリングの技法 内 容：カウンセリングの構造や基本五技法について学ぶ。 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか)：カウンセリングの実際 内 容：カウンセリングが教育現場で実際にどのように行われているのか、事例を通して学習する。 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか)：教育における問題行動について 内 容：不登校・いじめ・非行など、教育における問題行動について学び、それをカウンセリング事例として考える。 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか)：教育相談の実際 内 容：いじめ・不登校・非行といった問題行動に対しどのように接するのかをロールプレイを通して学習し考察する。 教科書・指定図書